

# かほく市立高松中学校 学校便り

《校訓》「責任を果たせ 自主・協同・奉仕」

# さわやか



特別号 2 令和7年9月12日発行  
校長 塚田 秀和

## □ 前期学校評価アンケート結果等のお知らせ

2学期がスタートして2週間が過ぎました。今年度の運動会は暑さを考慮して、屋内（とり野菜みそ BLUECATS ARENA）で25日（木）に開催します。学校では3年生はリーダーとして運動会の準備を、1、2年生は20日（土）からの郡市新入大会に向けて頑張っている姿が見られます。始業式では2学期のテーマを「答えのない授業」と話をしました。授業に限らず、学校生活全体を通して、自分で気づき、調べ、考えて「答えを見つけてほしい」という意味です。

さて、保護者の皆様のご意見をお伺いし、家庭・地域・学校がより連携した教育活動が進められるように7月に「本校の教育活動に関するアンケート（生徒・保護者）」を実施させていただきました。この紙面では、保護者の皆様にぜひ、お知らせしたい項目について記載しました。この結果を踏まえて、より良い学校づくりに努めてまいります。なお、回答いただいたすべてのアンケート結果は、本校ホームページに掲載しましたので、ご覧ください。

## ○ 学校での授業や生活のようす

学校は「安全・安心」な環境であることが求められます。「学校生活が楽しい」と回答している生徒・保護者とも昨年同時期より増加（生徒は6ポイント増加）しています。生徒アンケートの結果より、学校は全体的に落ち着いており、温かな人間関係（生徒間、生徒・職員間）を土台に教育活動が行われている良好な状況と捉えています。また、今年度より毎月の生活アンケートで「学校が楽しい」と回答できなかった生徒にもアンケート後、すぐに一人一人の話をしっかり聞く機会を持っています。

授業についてもアンケート結果から、しっかりと取り組んでいるようすが伺えます。しかし、「授業がわかりやすい」の問いに肯定的な回答が得られなかった生徒も約1割います。

本校では、特別号1「本校における学力向上の取組」でお知らせした「自分で学び方を考えて学習を進める」という「高中スタイル」の授業を通して生徒自身が「分かる喜び」「学ぶ喜び」を体験させ、その体験が、自分で自分の背中を押し、次の学習への意欲を高め、自ら学びを進めることで、確かな学力を身に付けさせたいと考えています。

	質問項目	R7前期	R6 前期	評価
生徒 保護者	学校生活が楽しい	95% 88%	89% 87%	○
生徒	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	98%	97%	
生徒	先生は、生徒の話に耳を傾けてくれる。	94%	91%	○
生徒 保護者	授業はわかりやすい	91% 73%	93% 78%	△
生徒	授業では課題解決に向けて、自分で考え、自ら取り組んでいる	94%	91%	○
生徒	先生や友達の話をつかろうとして聞いている	98%	96%	
生徒	自分は礼を正す（あいさつ）ができています	96%	97%	

※ 数値（％）は、「1そう思う」「2だいたいそう思う」を加えた肯定的な評価の合計

※ 評価は昨年同期のアンケートと比較 ○：3ポイント以上上昇 △：3ポイント以上下降

## ○ 自己肯定感、自己有用感を高める

「自分には良いところがある」と回答した生徒が昨年度より4ポイント増加しています。

「自己肯定感（自分に対する肯定的な意識のこと）」「自己有用感（自分の属する集団の中で、自分が大切

な存在であることを自分自身が認識すること)」という感情が高いと自分自身に対する自信を深めたり、安易に問題行動や危険なものに近づいたりすることが抑制されると言われています。

本校では2学期の大きな行事である「運動会」「合唱コンクール」の機会を生かし、生徒の活動に「褒める・認める・励ます」といった肯定的な評価を積極的に行い、「自己肯定感」「自己有用感」を体験を通して積み重ねていきたいと考えています。

なお、「自己有用感」を高めるために効果的な言葉が「ありがとう」や「あなたのおかげ」だそうです。親子でも、大人同士でも言われると嬉しい言葉です。

○ 家庭での学習や、時間の使い方に関すること

この2年間で家庭学習の時間が増加しています。特に、平日に1時間以上学習している生徒が約80%となりました。(R5:57.2% < R6:66.9% < R7:78.9%)休日に2時間以上学習している生徒も約80%です。アンケート結果ではメール・ネットの使用時間も昨年度より微増となっていますが、「かほく市ネットルール共同宣言」を守ろうと意識している」の肯定的回答も昨年度より8ポイント増加しています。

学校でも「ネットの光と影」や、時間の使い方について考える機会を設けていますが、アンケートで昨年よりも良好な結果が見られたことは、ご家庭でもネット等の使用や、時間の使い方について、お子様とお話をされている結果と考えています。ありがとうございます。

	質問項目	R7前期	R6 前期	評価
生徒	道徳の時間では、他人の意見を聞き、いろいろな見方や考え方を知ることができている。	96%	94%	
生徒	進路について考えたり、学んだりする機会がある。	83%	79%	○
生徒	自分にはよいところがある	77%	73%	○
生徒	将来の夢や目標を持っている	74%	72%	
保護者		63%	61%	
生徒	自分で計画を立てて勉強している	73%	71%	
保護者		60%	63%	△
生徒	「かほく市ネットルール共同宣言」を守ろうと意識している	83%	75%	○

平日に平均してどのくらいの時間、家庭学習をしていますか。

	30分未満	30分以上	1時間以上	2時間以上	3時間以上
生徒	5.1%	16.0%	45.6%	21.5%	11.8%
保護者	1.4%	15.5%	32.3%	30.0%	20.9%

休日に平均してどのくらいの時間、家庭学習をしていますか。

	1時間未満	1時間以上	2時間以上	3時間以上	4時間以上
生徒	6.8%	15.3%	28.1%	30.2%	19.6%
保護者	3.6%	6.9%	17.3%	32.7%	39.5%

平日に平均してどのくらいの時間、メール・ネット（ライン・ゲーム・動画・インスタグラム・フェイスブック・ツイッターなど）をしていますか。※ ただし、学習に関する視聴は除く

	全くしていない	1時間未満	1時間以上	2時間以上	3時間以上
生徒	3.7%	9.3%	38.0%	31.6%	19.4%
保護者	1.4%	11.8%	37.7%	33.6%	15.5%

休日に平均してどのくらいの時間、メール・ネット（ライン・ゲーム・動画・インスタグラム・フェイスブック・ツイッターなど）をしていますか。※ ただし、学習に関する視聴は除く

	全くしていない	1時間未満	1時間以上	2時間以上	3時間以上
生徒	2.1%	5.1%	18.1%	34.6%	40.1%
保護者	0.9%	4.5%	18.6%	30.9%	45.0%

## ○ 本校の「いじめ未然防止の取組」について

「学校は相談や問合せに適切に応じてくれる」「学校におけるいじめ未然防止や早期発見のための取組が伝わってくる」との質問項目について、肯定的評価がともに80%台であったこと、「分からない」との回答がともに約10%であったことより、本校の「いじめ未然防止の取組」を、お知らせします。

また、いじめに関する事案だけでなく、保護者の皆様や地域の皆様からお子様の様子を聞かせていただくことも大切です。今後ともご協力をお願いします。

	質問項目	R7前期	R6 前期	評価
保護者	学校は相談や問合せに適切に応じてくれる	85%	90%	△
保護者	学校におけるいじめ未然防止や早期発見のための取組が伝わってくる	80%	80%	
保護者	学校便り・ホームページ等で学校の指導方針やお子様の様子が伝わってくる	95%	94%	

## ○ いじめ未然防止の主な取組

### 取組1 毎月のアンケート（本校）、いじめに関する調査（河北郡市共通\_年2回）の実施

- ・月1回、月末の朝HRに「生活アンケート」を実施しています。  
アンケートの項目は「あなたは生徒同士の関わりの中で、嫌なことをされましたか？」の設問に「ある」「なし」で回答し、「ある」と回答した場合はその内容を記入する欄を設けています。「ある」と回答した場合は、学級担任を中心にすぐ聞き取るように努め、正確な事実確認を行います。また、その後は、管理職、生徒指導主事にも情報を共有し、学校全体で指導方針を決定しています。
- ・河北郡市共通で年2回のアンケートを実施しています。本校では6月に実施しました。コドモンで配信し、お子様と確認の上、保護者の皆様から回答していただきました。こちらも、得られた情報については、すぐ学級担任、学年職員で事実の確認、指導を進めています。

### 取組2 教育相談（毎月1回）の実施

- ・学級担任や学年担当の職員と1対1で面談する機会を設けています。この面談は、学級担任に限らず「学校に話ができる大人がいること」を知ってほしいからです。また、毎月のアンケートにおいて「学校が楽しくない」と回答した生徒には、すぐに学年職員で生徒の話を聞いています。

### 取組3 日頃のような観察

- ・授業中はもちろん、登校のようすや、休み時間の巡回など、授業中以外の生徒のようすも観察し、職員間で情報交換を行っています。

### 取組4 全校集会等での講話

- ・生活指導担当や、警察官、弁護士等の外部から講師を招聘し「いじめ防止、非行・被害防止講座」を実施し、いじめを許さないこと（いじめは犯罪、人権侵害であること）についてお話を聞いています。

## ○ いじめを認知したときの対応

- ・事実確認を行い、内容に応じた指導を行います。学校だけでなく警察、教育委員会等の関係機関とも連携を取り進めていきます。関係する生徒の保護者に、事態の経緯、学校の対応を説明します。
- ・事態に応じて、石川県より派遣されている「いじめ対応アドバイザー（本校職員も年2回、このアドバイザーより「学校組織としてのいじめ対応」の研修を受けています）」に助言を受けたり、関係機関と連携したりして対応します。
- ・心のケアとして、スクールカウンセラーや教育相談員との面談を必要に応じて行います。
- ・事態が起きた後、少なくとも3ヶ月間、関係生徒の様子を観察するとともに、保護者と確認した上で、事態の解消についての判断をします。

※なお、詳細については本校ホームページに「令和7年度いじめ防止基本方針」を掲載しています。

## □ ホームページにおいて、学校の様子をお知らせしています。

日々の出来事を更新しています。ぜひ、ご覧ください。 <https://cms1.ishikawa-c.ed.jp/takamj>

本校が、お子様、保護者の皆様、地域の皆様にとって、より良い学校となるよう皆様のご支援ご協力をよろしくお願いします。